

☆授業中のルール、明確になっていますか？ ～子どもが安心して授業に向かうために～

勝手に発言する子がいて困っているんですが…



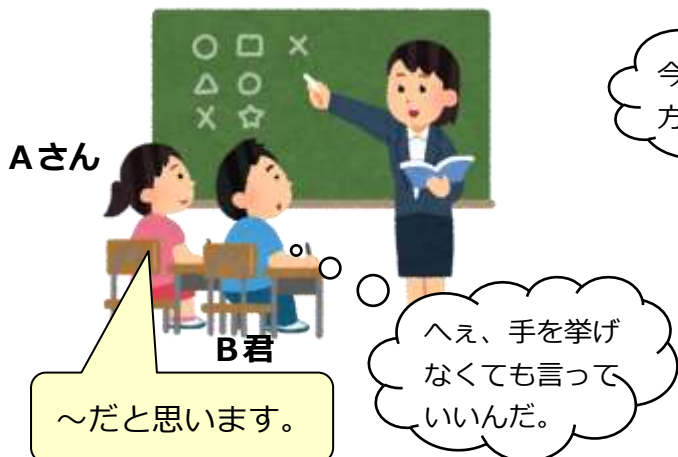
勝手に発言する背景には、本人の障がいによる困難さが関係していることもあります。まずは、自分の学級の発言のルールが明確になっているか、他の児童にも徹底されているかを考える必要があります。



こんな例があります

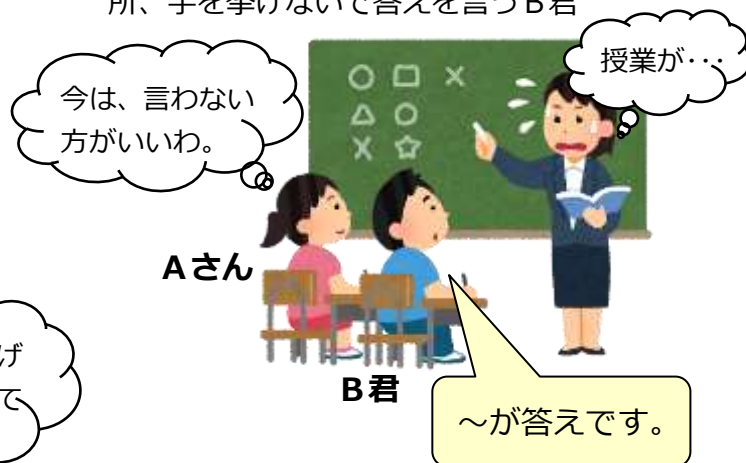
①パターン

教師は発言を求めて「どうですか?」と言
い、手を挙げないで答えたAさん



②パターン

教師は発言を求めていない流れで「～どう
ですか?」と全体に問いかけ、次に進もうとした
所、手を挙げないで答えを言うB君



授業の場面において、①のパターンや②のパターンは混在すると思います。
場の空気を読んで行動するAさんに対し、それが苦手なB君のようなタイプがいます。
B君のようなタイプは、学級で当たり前とされている暗黙のルール等が分からないことが
あります。そんな児童生徒からすると、時と場合によって、自由な発言が許されたり、
許されなかったりして、先生から意味も分からずに怒られたという印象だけが残ってし
まいます。

**個別の配慮や支援を考える前に、
まずは、学級全体の授業中のルールを明確に示すことが授業の基盤となります。**

【どんな授業中のルールが必要ですか？】

平成 29 年 4 月に出された『ふくしまの「授業スタンダード」』の中では、次のように述べています。

学習規律について、発達段階を踏まえて共通実践することが大切です。

- 学習に臨む心構えや約束事を指導する。
 - 宿題や学習用具を忘れない。
 - 始業前に学習用具を準備する。
 - 指名されたら返事をする。
 - 1 分前着席をする。 など
- よい話し手、よい聞き手を育てる。
 - 相手意識や目的意識をもつ。
 - 声の大きさ、速さ、目線に気を付けて話す。
 - 話をしている人を見て共感的な態度で聞く。
 - 必要なことはメモをとる。 など

学校や学級によって、特に大切にしたいことがあると思います。明確に児童生徒に示すことが大切です。



【学級の実態によっては、こんな授業中のルールを示す例もあります。】

暗黙のルールも、明確にして示すことで、子どもにとって分かりやすくなります。いったん定着したらルールの掲示を外します。

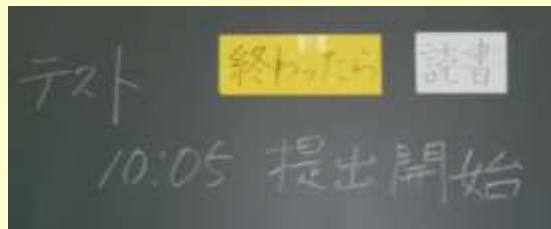
分からない時にどうするのか、しっかりとルールにして伝えておくと、子どもも安心して、学習に臨めます！

*当センターWebサイト教材・支援機器ポータル実践例「学習学習でつまずく児童に対して、学級でできる配慮」より

一つの課題が終わった後に、子どもたちからの「先生！どうすれば・・・」の質問ラッシュを避けるために、活動の順番を明確にし、見通しを持たせます。



課題が終わった後に、自主的に自分にあった課題を選び学習する例



「提出開始」と時間と行動を明確に示し、終わった後の行動も示した例